

第4学年O組 音楽科学習指導案

令和2年10月〇日 〇曜日 第〇時 (音楽室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 題材 につぼんのうた みんなのうた(3)

2 題材の目標

- (1) 曲想と旋律など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりに気付くとともに、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や旋律同士の関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (3) 歌詞や曲想、声部の役割を生かした表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

3 学習の計画 (2時間完了)

- 第1時 歌詞の内容から情景を想像して、主旋律(上のパート)を曲想に合った声で歌う。  
 第2時(本時) 副次的な旋律(下パート)を歌い、各パートの役割を生かした歌い方を工夫し、二部合唱する。

4 本時の学習指導

- (1) 目標
  - 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うことができる。
  - 旋律同士の関わりを捉え、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。
- (2) 準備・資料
  - 教師……拡大譜、学習カード
- (3) 関連
  - 3年 音楽 につぼんのうた みんなのうた (情景を思い浮かべ、気持ちを込めて表現する)
  - 4年 音楽 につぼんのうた みんなのうた (1) (2) (情景を思い浮かべ、曲想を生かして表現する)
  - 5年 音楽 につぼんのうた みんなのうた (歌詞の内容を理解し、旋律の特徴を生かして表現する)

(4) 学習過程

段階	学習活動	時間	指導上の留意事項
つかむ	1 既習曲「プパポ」を歌う。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習につながる、掛け合いのある既習曲を歌いながら、楽しい雰囲気づくりをする。</li> <li>○ 旋律線を意識させ、ブレスやフレーズに気を付けながら、曲想に合った柔らかい声で歌わせる。</li> <li>○ 既習曲「プパポ」の掛け合いを想起させ、主旋律と副次的な旋律との関わりを捉えて二部合唱していくことを伝える。</li> </ul>
	2 「もみじ」の上パートを歌い、本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         旋律同士の関わりを感じ取って、二部合唱しよう。                     </div>	7	
追求する	3 旋律同士の関わりを捉える。 (1) 下パートを聴唱法で歌う。 (2) 旋律同士の関わりについて、気付いたことを出し合う。 ・最初は追いかけてっこしているみたい。 ・追いかけてっこしているけれど、途中で追いついたみたいになる。 ・3段目は、リズムが全く同じだけれど、音の高さは違う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上パートとリズムの異なる「かずあるなかに」「やまのふもとの」の部分は、繰り返し歌ってリズムをしっかりとつかませる。</li> <li>○ 拡大譜に、児童から出た意見を書き込んでいく。言葉だけでなく、旋律線などを書き込むなどして、旋律の動きや関わりについての理解を促すようにする。</li> <li>○ 1, 2段目は掛け合いになっていることや、3段目は音の高さは異なるが、リズムは同じであることに気付かせる。</li> </ul>

追 求 す る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4段目の始まりは、全然違うリズムになっている。</li> <li>・ 4段目はどちらも「ド」の音から始まるけれど、高さが違う。</li> </ul> <p>(3) 一人一人が、曲想にふさわしい表現の工夫を考える。</p> <p>(4) 考えた工夫を伝え合い、全体で表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下パートが追いかけるところは、上パートと同じぐらいの強さで歌うといい。</li> <li>・ 3段目は、どちらも柔らかい声で歌って、きれいに重なるようにしたい。</li> <li>・ 最後の同じ音は、気持ちを合わせて丁寧に歌って終わりたい。</li> </ul>	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4段目は、1オクターブ違う同じ音から始まり異なるリズムで進むが、最後は同じリズムで重なり、同じ音で終わることに気付かせる。</li> <li>○ 旋律の関わりから、パートの役割を生かした表現の工夫を考え、学習カードに書くようにさせる。</li> <li>○ 出された意見は歌って試し、曲想にふさわしいかどうかを考えさせ、決まった表現の工夫を拡大譜に書き込むようにする。</li> <li>○ それぞれのパートの役割を生かした表現の工夫になっているかどうかを確認しながら表現の工夫をさせる。</li> </ul> <p><b>評</b> 旋律同士の関わりを捉え、曲想にふさわしい歌い方を工夫している。 (学習カード、話し合い)</p>
	<p>4 歌詞の表す様子を思い浮かべ、旋律の関わりや声の響き合いを感じ取りながら合唱する。</p> <p>(1) 二つの合唱グループに分け、お互いに聴き合う。</p> <p>(2) よかったところや、改善点を伝え合う。</p> <p>(3) 全体で合唱する。</p>	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合唱を客観的に聴くことができるようにするために、二つのグループに分けて聴き合う。</li> <li>○ 出された意見を全体合唱に生かせるように拡大譜に書き込む。</li> <li>○ 伴奏の変化についても触れ、歌だけではなく伴奏も一緒になって美しい響きをつくり上げていることを押さえてから合唱する。</li> </ul> <p><b>評</b> 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌っている。 (合唱)</p>
	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>(1) 学習カードに、振り返りを記入する。</p> <p>(2) 次時の予告を聞く。</p>	45	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学びの振り返りをさせ、次時の活動への見通しをもたせる。</li> </ul>

(5) 本時の評価規準

- 互いの歌声や伴奏を聴いて、曲想にふさわしい工夫を生かした音色や強さで歌っている。  
(合唱)
- 旋律同士の関わりを捉え、パートの役割を考えながら曲想にふさわしい歌い方を工夫している。  
(学習カード、話し合い)

## 5 備 考

(1) 学級の実態

- 歌うことが好きな児童が多く見られるが、周りの友達と声を合わせて歌うという意識をもって歌うことのできる児童はまだ少ない。これまでに部分合唱は経験してきているが、本格的な合唱に挑戦するのは初めてである。

(2) 指導の力点

- 旋律の関わりの特徴を捉えながら、それを生かした表現の工夫を、歌って試しながら考えていくことにより、旋律の重なる面白さや美しさを感じ取らせるようにする。まとめの段階では、学級を二つのグループに分け、互いに聴き合って客観的に声の響き合いを感じ取らせる。その後、全体合唱で響き合う面白さや美しさを体感させながら、声を合わせて合唱する楽しさを味わわせる。

## 6 指導と評価